

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数								非常 勤教 員	専任教 員一人 あたりの在籍 学生数	備 考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち 理学療 法士又 は作業 療法士 数	助 手			
医療専門課程（Ⅱ部） 理学療法学 科	人	人	人	人	8人	人	8人	人	57 人	13.3人	
計	人	人	人	人	8人	人	8人	人			

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input checked="" type="radio"/>	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授で きる医師等の専門家が配置されている。	3
<input type="radio"/>	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
<input type="radio"/>	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input checked="" type="radio"/>	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の 知識を有する教員が担当している。	4
<input type="radio"/>	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以 上の知識を有する教員が担当している。	3
<input type="radio"/>	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以 上の知識を有する教員が担当している。	2
<input type="radio"/>	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】 養成施設指導ガイドラインとの連動状況

医療専門課程（Ⅱ部）理学療法学科

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼 任)
基礎	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	心理学	15	鈴木 暁子	兼任
		人間関係学	15	鈴木 暁子	兼任
		生命倫理学	15	林 貴啓	兼任
		地域福祉学	15	山河 正裕	兼任
		自然科学概論	8	林 研	兼任
		情報処理	8	阪本 豪	兼任
		統計学	8	周藤 俊治	兼任
		医学英語	15	近藤 未奈	兼任
		コミュニケーション論	8	越智 久雄	専任
専門基礎	人体の構造と機能及び 心身の発達	解剖学	45	早崎 華	兼任
		解剖学実習	45	早崎 華	兼任
		生理学	30	木村 晃大	兼任
		生理学実習	23	木村 晃大	兼任
		運動学	15	越智 久雄	専任
		臨床運動学	15	文野 勝利	兼任
		人間発達学	15	横田 浩子	兼任
		臨床心理学	15	藤井 章乃	兼任

	疾病と傷害の成り立ち 及び回復過程の促進	病理学概論	8	橋本 和明	兼任
		一般臨床医学	8	西村 朋浩	専任
				森田 婦美子・竹原 友貴 福原 雅之・松本 吉弘 弓場 健義	兼任
		内科学	30	原納 優	兼任
		整形外科学	30	藤井 敏之	兼任
		神経内科学	15	馬場 孝輔	兼任
		脳神経外科学	15	山田 圭一	兼任
		精神医学	7.5	西田 斉二	兼任
		小児科学	8	中平 剛志・笠原 弘樹 大川 真司・松永 甫 太田 幸志	専任
		老年医学	8	笠原 弘樹・西村 朋浩	専任
				香川 健太郎	兼任
		臨床薬理学	8	名徳 倫明	兼任
		救命救急医学	8	笠原 弘樹	専任
				西山 正志	兼任
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	15	越智 久雄・中平 剛志	専任	
	リハビリテーション医学	8	笠原 弘樹・中平 剛志 松永 甫	専任	
			大根 茂夫・北田 泰敏	兼任	
地域理学療法学入門論	8	太田 幸志	専任		
専門	基礎理学療法学	理学療法概論	15	越智 久雄	専任
		日常生活活動学	15	中平 剛志	専任
		理学療法障害学	15	越智 久雄	専任
	理学療法管理学	理学療法管理学	15	中平 剛志	専任
				森 輝樹・田中 仁 岡村 太嗣・清水 啓史 文野 勝利・稲岡 秀陽 高橋 孝吉	兼任
	理学療法評価学	理学療法評価学 I	30	中平 剛志・松井 奈穂子 大川 真司・太田 幸志 西村 朋浩	専任
宮本 光二				兼任	

		理学療法評価学Ⅱ	30	中平 剛志・越智 久雄 大川 真司・西村 朋浩	専任	
				福澤 友輝・安富 祐人	兼任	
理学療法治療学	運動療法学	運動療法学	45	近藤 圭三・今井 義廣 金 光浩・濱田 真一	兼任	
		小児期の理学療法	15	横田 浩子	兼任	
		循環器障害の理学療法	8	北浦 重孝	兼任	
		健康・代謝・呼吸障害の理学療法	15	太田 信也・山田 忠明	兼任	
		脊髄損傷の理学療法	8	西村 朋浩	専任	
		脳障害の理学療法	15	川南 香代子・面田 真也	兼任	
		神経筋障害の理学療法	8	橋田 剛一・加藤 直樹 小林 瑞季	兼任	
		有痛性障害の理学療法	8	入江 保雄	兼任	
		運動器疾患・スポーツ障害の理学療法	30	三谷 保弘・松尾 高行	兼任	
		物理療法学	15	大久保 秀雄	兼任	
	義肢装具学	15	須藤 圭治	兼任		
	地域理学療法学	地域理学療法学実践論		15	越智 久雄・太田 幸志	専任
					備酒 伸彦・松井 一人 田中 仁	兼任
		日常生活活動学実習		23	笠原 弘樹・中平 剛志 西村 朋浩	専任
					福澤 友輝・宮本 光二	専任
	生活環境論	8	松井 奈穂子	専任		
	理学療法演習	臨床ゼミナールⅠ	30	1年担任教員	専任	
		臨床ゼミナールⅡ	30	2年担任教員	専任	
		臨床ゼミナールⅢ	15	1年担任教員	専任	
		国試対策ゼミナール		60	大川 真司・西村 朋浩	専任
				成 俊弼・森下 聖 稲田 竜太	兼任	
理学療法演習Ⅰ	15	大川 真司・太田 幸志 笠原 弘樹・松井 奈穂子 松永 甫	専任			

		理学療法演習Ⅱ	15	1年担任教員	専任
		理学療法演習Ⅲ	15	2年担任教員	専任
		理学療法演習Ⅳ	15	2年担任教員	専任
				小柳 磨毅・古原 将馬	兼任
		国試対策特論	15	大川 真司・西村 朋浩 笠原 弘樹・中平 剛志 松井 奈穂子・松永 甫 太田 幸志	専任
	理学療法実習	理学療法実習Ⅰ (旧カリ)		非開講	
		理学療法実習Ⅱ (旧カリ)		非開講	
		理学療法実習Ⅲ (旧カリ)	45 時間	PT 学科全専任教員	専任
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	135 時間	PT 学科全専任教員	専任
		臨床実習Ⅱ (医療施設外)	90 時間	PT 学科全専任教員	専任
		臨床実習Ⅲ	360 時間	PT 学科全専任教員	専任
		臨床実習Ⅳ	360 時間	PT 学科全専任教員	専任
		見学臨床実習	45 時間	PT 学科全専任教員	専任
		評価臨床実習Ⅰ	45 時間	PT 学科全専任教員	専任
		評価臨床実習Ⅱ	45 時間	PT 学科全専任教員	専任
		評価臨床実習Ⅲ	45 時間	PT 学科全専任教員	専任
		総合臨床実習Ⅰ	未開講	2024年度より3年次開講	
		総合臨床実習Ⅱ (医療施設外)	未開講	2024年度より3年次開講	
		総合臨床実習Ⅲ	未開講	2024年度より3年次開講	
		総合臨床実習Ⅳ	未開講	2024年度より3年次開講	

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

理学療法学科

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
(見学臨床実習)	1年前期	臨床ゼミナール I	1年通年

理学療法士の業務見学・体験・理解		理学療法演習Ⅰ	1年前期
		理学療法概論	1年前期
		リハビリテーション概論	1年前期
		コミュニケーション論	1年前期
(評価臨床実習Ⅰ) 情報収集、医療面接、検査・測定の実施	1年後期	臨床ゼミナールⅠ	1年通年
		コミュニケーション論	1年前期
		理学療法演習Ⅱ	1年後期
		理学療法評価学Ⅰ	1年後期
		日常生活活動学	1年後期
(臨床実習Ⅰ) 情報収集、動作観察、医療面接、 検査・測定の実践	3年前期	臨床ゼミナールⅡ	2年通年
		理学療法演習Ⅲ	2年前期
		理学療法演習Ⅳ	2年後期
		理学療法評価学Ⅱ	2年前期
		日常生活活動学実習	2年前期
		理学療法障害学	2年後期
		臨床ゼミナールⅢ	3年通年
(臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲ) 情報収集、動作観察、医療面接、 検査・測定の実践 治療目標及び計画の立案、実施、検証	3年前期	臨床ゼミナールⅡ	2年通年
		理学療法演習Ⅲ	2年前期
		理学療法演習Ⅳ	2年後期
		理学療法評価学Ⅱ	2年前期
		日常生活活動学実習	2年前期
		理学療法障害学	2年後期
		地域理学療法学入門論	2年後期
		地域理学療法学実践論	2年後期
		生活環境論	2年後期
		臨床ゼミナールⅢ	3年通年
(臨床実習Ⅳ) 情報収集、動作観察、医療面接、 検査・測定の実践 治療目標及び計画の立案、実施、検証	3年後期	臨床ゼミナールⅡ	2年通年
		理学療法演習Ⅲ	2年前期
		理学療法演習Ⅳ	2年後期
		理学療法評価学Ⅱ	2年前期
		日常生活活動学実習	2年前期
		理学療法障害学	2年後期
		地域理学療法学入門論	2年後期
		地域理学療法学実践論	2年後期
		生活環境論	2年後期
		臨床ゼミナールⅢ	3年通年

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	①OCR 運営会議 ②学校関係者評価委員会
委員名（委員長）	①OCR 運営会議 理事長：福田益和 学校長：越智久雄 学科長兼教務課長：中平剛志 主任：大友健治 事務部部长：中野尚美

	<p>事務部課長：上村美智子</p> <p>②学校関係者評価委員会</p> <p>学校長：越智久雄</p> <p>学科長兼教務課長：中平剛志</p> <p>主任：大友健治</p> <p>卒業生：松尾康弘、康村祥伎</p> <p>在校生保護者または保証人：宇田川久恵、船原弘美、栞原美樹</p> <p>企業等関係者：蓮子陽平、久保尚央、小林正樹</p> <p>事務部部长：中野尚美</p> <p>事務部課長：上村美智子</p> <p>事務部職員：渡邊智行</p>
組織の開催頻度	①1か月に1回 ②1年に1回
組織の取り組み内容	<p>①</p> <p>(1) 法人本部及びOCRの将来構想及び重要な施策並びに重要な事業計画に関する事項</p> <p>(2) 組織機構等の法人本部及びOCR運営の基幹的制度の制定、改廃に関する事項</p> <p>(3) OCR教員の任免に関するの理事長に対する具申事項</p> <p>(4) 入学・進級・卒業の判定及び学籍異動に関する件の承認</p> <p>(5) 合同リーダー会議で審議し、答申のあった事項又は具申のあった事項</p> <p>(6) その他、校長が必要と認める事項</p> <p>② (1) 教育理念・目的・育成人材像等</p> <p>(2) 学校運営</p> <p>(3) 教育活動</p> <p>(4) 教育成果</p> <p>(5) 学生支援</p> <p>(6) 教育環境</p> <p>(7) 学生の募集と受け入れ</p> <p>(8) 財務</p> <p>(9) 法令等の遵守</p>
自己点検・評価結果の公表	HPで公表 (URL : https://ocr.ac.jp/disclosure/)

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	(1) 教学委員会 (2) 運営会議
	委員構成等	(1) 理学療法学科・作業療法学科の教員の内、教務を担当とする教員 (2) 校長・各学科長／主任・事務担当者
	改善の仕組みの実際	<p>まず、シラバス作成の流れとしては、教務担当の教職員から構成される教学委員会で、次年度の授業科目に関する検討を行い、各学科会議からの意見も踏まえ、科目担当者に関する計画案を作成する。</p> <p>その後、学校運営に関わる校長を始めとした教職員で構成される運営会議にて、計画案が報告され、科目担当者の確定を行う。</p> <p>(11月～12月)</p> <p>科目担当者にシラバス案の作成を依頼するが、その際、前年度実施している授業評価アンケートの結果も反映して作成する。</p> <p>(2月)</p> <p>科目担当者より提出されたシラバス案を教学委員会で確認し、次年度のシラバスが最終確定する。</p> <p>上記のように、学生からの声や科目担当者以外の教員がチェックすることにより、問題点がある場合等は改善につなげていく。</p>

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己点検・評価については、「専修学校における学校評価ガイドライン」に従い、校長、学科長・学科主任、事務局を中心とした運営会議構成員を中心に実施している。結果は、卒業生、実習指導者、保護者から組織されている学校関係者評価委員会に提示され、各委員の立場から評価をしてもらう。自己点検・評価報告書及び委員からの評価結果はホームページ上で公開されるとともに、運営会議構成員により今後の教育活動及び学校運営に活用している。教育課程に関係する内容などについては、各学科で検討し、次年度に向け改善につなげていく。

また、上記に加え、毎年、卒業生に学生生活、教育内容等に関するアンケート調査を行っており、これらの結果も次年度の教育や学生指導などに反映していく。

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数								非常 勤教 員	専任教 員一人 あたりの在籍 学生数	備 考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち 理学療 法士又 は作業 療法士 数	助 手			
医療専門課程（Ⅱ部） 作業療法学 科	人	人	人	人	人	人	7人	人	68 人	11.7人	
計	人	人	人	人	人	人	7人	人			

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】 養成施設指導ガイドラインとの連動状況

医療専門課程（Ⅱ部）作業療法学科

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当コマ数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	心理学	15	鈴木 暁子	兼任
		人間関係学	15	有賀 喜代子	兼任
		生命倫理学	15	長谷川 昌士	兼任
		地域福祉学	15	山河 正裕	兼任
		自然科学概論	8	林 研	兼任
		情報処理	15	阪本 豪	兼任
		統計学	8	周藤 俊治	兼任
		医学英語	15	近藤 未奈	兼任
専門基礎	人体の構造と機能及び 心身の発達	解剖学	45	大友 健治	専任
				清水 和俊・井上 直樹	兼任
		解剖学実習	45	大友 健治・打田 明	専任
		生理学	30	長谷川 昌士	兼任
		生理学実習	22.5	小栢 拓也・石田 真由	専任
		運動学総論	8	長谷川 昌士	兼任
		運動学各論	15	長谷川 昌士	兼任

		運動学実習	22.5	打田 明・大友 健治 北田 泰敏・松下 健史 小栢 拓也	専任
				長谷川 昌士	兼任
		人間発達学	15	福澤 友輝・池口 温・菊 池 亜寿沙・花木 陽一・ 山田 道成	兼任
	疾病と障害の成り立ち及 び回復過程の促進	臨床心理学	15	鈴木 暁子	兼任
		一般臨床医学	15	西出 義明・小谷 美紀・ 康村 祥伎・大槻 透 向井 智浩	兼任
		薬理学	8	名徳 倫明	兼任
		救命救急医学	8	長谷川 昌士	兼任
		栄養学	8	仲村 祐江	兼任
		内科学	30	長谷川 昌士	兼任
		整形外科学	30	西出 義明	兼任
		神経内科学	15	松長 宏泰	兼任
		脳神経外科学	15	平野 博久	兼任
		精神医学	15	西田 斉二	兼任
		小児科学	15	坂井 新・林 直樹 泉 怜那	兼任
		老年医学	7.5	小栢 拓也	専任
保健医療福祉とリハビリ テーションの理念	リハビリテー ション概論	15	北田 泰敏	専任	
			市田 薫・福元 正伸 松本 宏昭	兼任	
	リハビリテー ション医学	15	松下 健史・石田 眞由 大友 健治・打田 明 小栢 拓也	専任	
大垣 和也・近藤 晶	兼任				
専門	基礎作業療法学	作業療法概論	15	小栢 拓也・石田 眞由	専任
				川浪 弘一朗・桜井 裕介 田中 裕二	専任
		基礎作業学総論	15	大谷 将之	兼任
				北田 泰敏	専任
		基礎作業学 治療論	23	松下 健史・大友 健治	兼任
				下條 拓也・梶田 一聖 有賀 喜代子	兼任

作業療法管理学	作業療法管理学	15	3年担任教員	専任
			早瀬 祐也・木匠 あゆみ 松長 宏泰・中野 由佳 平岡 克規	兼任
作業療法評価学	作業療法評価学 総論	23	島田 康雄・北田 泰敏 打田 明・小栢 拓也	専任
	作業療法評価学 認知系	22.5	OT 学科全専任教員	専任
	作業療法評価学 運動系	23	打田 明・北田 泰敏 小栢 拓也	専任
	作業療法評価学 発達障害系Ⅰ	8	中村 愛子	兼任
	作業療法評価学 発達障害系Ⅱ	8	中村 愛子	兼任
作業療法治療学	作業療法治療学 各論	23	島田 康雄・北田 泰敏	専任
			井上 大輔・川見 清豪 山下 里美	兼任
	作業療法治療学 身体障害系Ⅰ	15	山根 一恭・松比良 剛	兼任
	作業療法治療学 身体障害系Ⅱ	15	荒木 雅子	兼任
	作業療法治療学 老年期障害系Ⅰ	15	井上 健治	兼任
	作業療法治療学 老年期障害系Ⅱ	15	上杉 瑞穂	兼任
	作業療法治療学 精神障害系Ⅰ	15	松下 健史・石田 眞由	専任
			深山 亜矢・康村 祥伎 林 直樹	兼任
	作業療法治療学 精神障害系Ⅱ	15	松下 健史・石田 眞由	専任
			久保 絢子・康村 祥伎 金山 達也・芳賀 大輔 林 直樹・宮本 亮	兼任
	作業療法治療学 発達障害系Ⅰ	15	田中 裕二	兼任
	作業療法治療学 発達障害系Ⅱ	15	田中 裕二	兼任
	作業療法実習Ⅰ	23	OT 学科全専任教員	専任
	作業療法実習Ⅱ	23	OT 学科全専任教員	専任
作業療法実習Ⅲ	23	OT 学科全専任教員	専任	
作業療法実習Ⅳ	23	OT 学科全専任教員	専任	

		作業療法実習 対策ゼミⅠ	22.5	島田 康雄・打田 明	専任
				新野 大輔	兼任
		作業療法実習 対策ゼミⅡ	22.5	島田 康雄・小栢 拓也 松下 健史	専任
				新野 大輔	兼任
	専門必修科目	臨床ゼミナール Ⅰ	7.5	北田 泰敏・石田 眞由	専任
		臨床ゼミナール Ⅱ	8	島田 康雄・松下 健史 北田 泰敏・石田 眞由	専任
				足立 一・中尾 拓	兼任
		臨床ゼミナール Ⅲ	15	北田 泰敏	専任
				栗須 哲秀・楠本 涼介	兼任
		国試対策ゼミナ ールⅠ	15	3年担任教員	専任
		国試対策ゼミナ ールⅡ	15	3年担任教員	専任
		国試対策ゼミナ ールⅢ	15	3年担任教員	専任
	国試対策ゼミナ ールⅣ	15	3年担任教員	専任	
	地域作業療法学	日常生活活動学	15	松長 宏泰	兼任
		在宅ケア論	15	藤原 太郎・森田 智也 立口 俊寛	兼任
		地域作業療法学	15	北田 泰敏・打田 明 石田 眞由	専任
				高木 裕佳・林 直樹 中西 誠司・新野 大輔 土橋 光伸・小南 陽平	兼任
	臨床実習	地域作業療法 実習	45 時間	OT 学科全専任教員	専任
		臨床実習Ⅰ	360 時間	OT 学科全専任教員	専任
		臨床実習Ⅱ	360 時間	OT 学科全専任教員	専任
臨床実習Ⅲ		360 時間	OT 学科全専任教員	専任	

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

作業療法学科

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
(地域作業療法実習) 通所・訪問リハビリテーションでの	2年後期	リハビリテーション概論	1年前期
		作業療法概論	1年前期

作業療法場面の見学 地域包括ケアシステムの仕組みについての 理解		リハビリテーション医学	1年後期
		在宅ケア論	1年後期
		地域作業療法学	2年後期
(臨床実習Ⅰ) 情報収集、動作観察、医療面接、 検査・測定の見学と実践 評価計画の立案と実施	3年前期	作業療法実習Ⅰ	1年前期
		作業療法実習Ⅱ	1年後期
		作業療法実習Ⅲ	2年前期
		作業療法実習Ⅳ	2年後期
		作業療法実習対策ゼミⅠ	2年後期
		作業療法実習対策ゼミⅡ	2年後期
		日常生活活動学	2年後期
		作業療法評価学総論	1年後期
		作業療法評価学認知系	2年前期
		作業療法評価学運動系	2年前期
		作業療法評価学発達障害系Ⅰ	2年前期
		作業療法評価学発達障害系Ⅱ	2年後期
(臨床実習Ⅱ) 情報収集、動作観察、医療面接、 検査・測定の見学と実践 評価計画の立案と実施 作業療法プログラムの立案、実施、検証	3年前期	作業療法実習対策ゼミⅠ	2年後期
		作業療法実習対策ゼミⅡ	2年後期
		日常生活活動学	2年後期
		作業療法治療学各論	2年後期
		作業療法治療学身体障害系Ⅰ	2年前期
		作業療法治療学身体障害系Ⅱ	2年後期
		作業療法治療学老年期障害系Ⅰ	2年前期
		作業療法治療学老年期障害系Ⅱ	2年後期
		作業療法治療学精神障害系Ⅰ	2年前期
		作業療法治療学精神障害系Ⅱ	2年後期
		作業療法治療学発達障害系Ⅰ	2年前期
		作業療法治療学発達障害系Ⅱ	2年後期

【自己評価 3-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3

	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	①OCR 運営会議 ②学校関係者評価委員会
委員名（委員長）	①OCR 運営会議 理事長：福田益和 学校長：越智久雄 学科長兼教務課長：中平剛志 主任：大友健治 事務部部长：中野尚美 事務部課長：上村美智子

	<p>②学校関係者評価委員会</p> <p>学校長：越智久雄</p> <p>学科長兼教務課長：中平剛志</p> <p>主任：大友健治</p> <p>卒業生：松尾康弘、康村祥伎</p> <p>在校生保護者または保証人：宇田川顕子、船原弘美、栞原美樹</p> <p>企業等関係者：蓮子陽平、久保尚央、小林正樹</p> <p>事務部部长：中野尚美</p> <p>事務部課長：上村美智子</p> <p>事務部職員：渡邊智行</p>
組織の開催頻度	①1か月に1回 ②1年に1回
組織の取り組み内容	<p>①</p> <p>(1) 法人本部及びOCRの将来構想及び重要な施策並びに重要な事業計画に関する事項</p> <p>(2) 組織機構等の法人本部及びOCR運営の基幹的制度の制定、改廃に関する事項</p> <p>(3) OCR教員の任免に関するの理事長に対する具申事項</p> <p>(4) 入学・進級・卒業の判定及び学籍異動に関する件の承認</p> <p>(5) 合同リーダー会議で審議し、答申のあった事項又は具申のあった事項</p> <p>(6) その他、校長が必要と認める事項</p> <p>② (1) 教育理念・目的・育成人材像等</p> <p>(2) 学校運営</p> <p>(3) 教育活動</p> <p>(4) 教育成果</p> <p>(5) 学生支援</p> <p>(6) 教育環境</p> <p>(7) 学生の募集と受け入れ</p> <p>(8) 財務</p> <p>(9) 法令等の遵守</p>
自己点検・評価結果の公表	HPで公表 (URL : https://ocr.ac.jp/disclosure/)

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	(1) 教学委員会 (2) 運営会議
	委員構成等	(1) 理学療法学科・作業療法学科の教員の内、教務を担当とする教員 (2) 校長・各学科長／主任・事務担当者
	改善の仕組みの実際	<p>まず、シラバス作成の流れとしては、教務担当の教職員から構成される教学委員会で、次年度の授業科目に関する検討を行い、各学科会議からの意見も踏まえ、科目担当者に関する計画案を作成する。</p> <p>その後、学校運営に関わる校長を始めとした教職員で構成される運営会議にて、計画案が報告され、科目担当者の確定を行う。</p> <p>(11月～12月)</p> <p>科目担当者にシラバス案の作成を依頼するが、その際、前年度実施している授業評価アンケートの結果も反映して作成する。</p> <p>(2月)</p> <p>科目担当者より提出されたシラバス案を教学委員会で確認し、次年度のシラバスが最終確定する。</p> <p>上記のように、学生からの声や科目担当者以外の教員がチェックすることにより、問題点がある場合等は改善につなげていく。</p>

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己点検・評価については、「専修学校における学校評価ガイドライン」に従い、校長、学科長・学科主任、事務局を中心とした運営会議構成員を中心に実施している。結果は、卒業生、実習指導者、保護者から組織されている学校関係者評価委員会に提示され、各委員の立場から評価をしてもらう。自己点検・評価報告書及び委員からの評価結果はホームページ上で公開されるとともに、運営会議構成員により今後の教育活動及び学校運営に活用している。教育課程に関係する内容などについては、各学科で検討し、次年度に向け改善につなげていく。

また、上記に加え、毎年、卒業生に学生生活、教育内容等に関するアンケート調査を行っており、これらの結果も次年度の教育や学生指導などに反映していく。

